

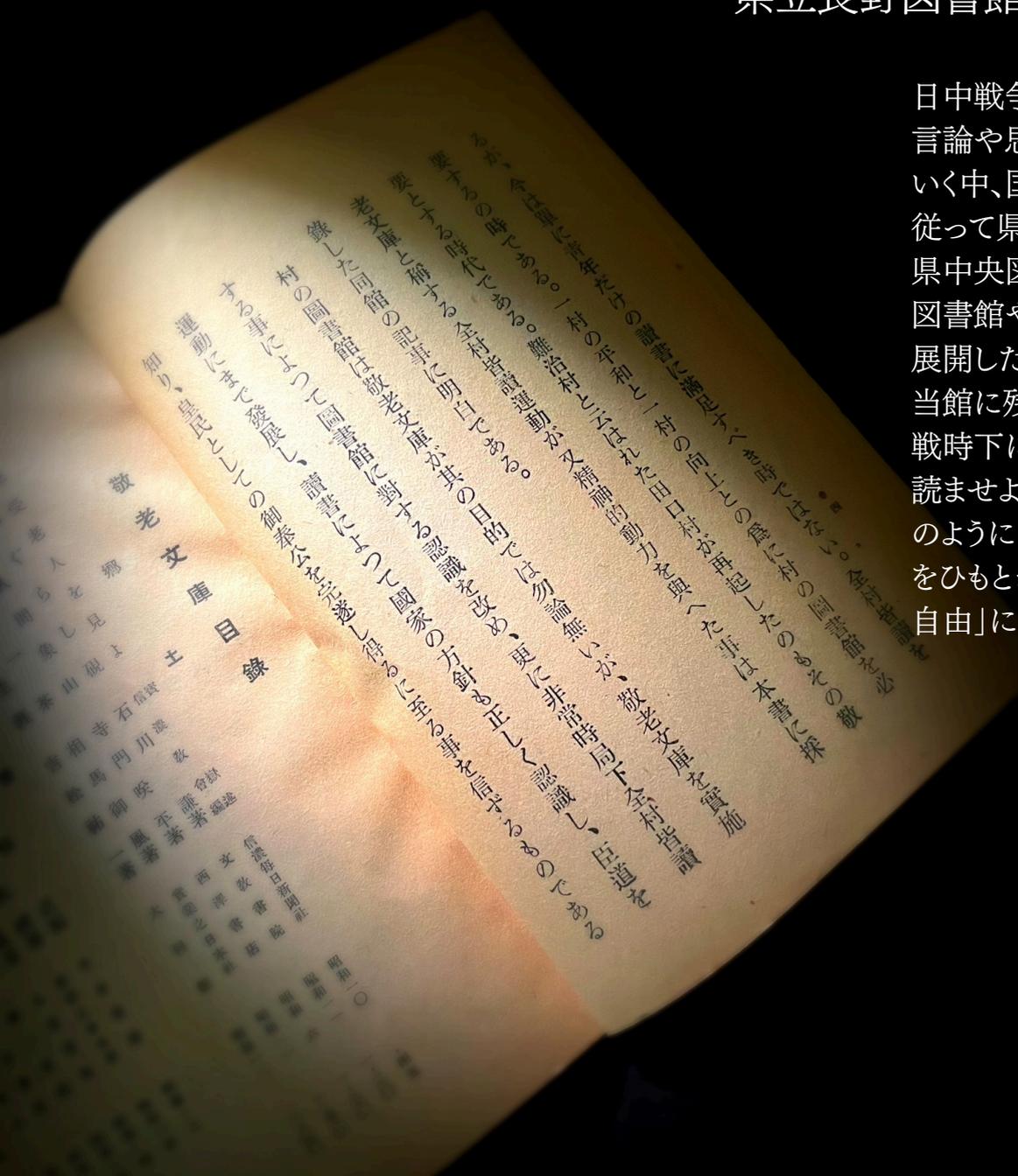
読ませなかったものと 読ませたかったもの

戦時下における「読書指導」を通して「知る自由」を考える

令和7年7月26日(土)~9月25日(木)

県立長野図書館2階一般図書室

日中戦争の勃発(1937)以降、言論や思想の統制が強まっていく中、国の挙国一致の方針に従って県立長野図書館(長野県中央図書館)が県内の農村図書館や青年会などに向けて展開した「読書指導」について、当館に残された資料をもとに、戦時下に国や図書館が国民に読ませようとしたものは何か、どのように「読ませたかった」のかをひもときながら、改めて「知る自由」について考えます。



読ませなかったものと 読ませたかったもの

戦時下における「読書指導」を通して「知る自由」を考える

平成27(2015)年に開催した戦後70年特別企画「発禁 1925-1944:戦時体制下の図書館と知る自由」では、当館に保存されていた検閲関係資料を基に、政府とその意を受けた図書館が所蔵資料を「読ませなかった」活動に焦点をあて、「知る自由」を考える機会としました

戦後80年である今年は、日中戦争(1937)の勃発以降、言論や思想の統制が強まっていく中、各府県の中央図書館が国の挙国一致の方針に従って展開した「読書指導」をテーマに取り上げます。

特に、県立長野図書館(長野県中央図書館)が県内の農村図書館や青年会等に向けて展開した「読書指導」について、当館に残された資料を基に、戦時期に国や図書館が読ませようとしたものは何か、どのように「読ませたかった」のかをひもときながら、改めて「知る自由」について考えます。

本企画展示の関係資料は、デジタル化し、「信州デジタルコモンズ」で公開いたします。



長野県中央図書館『全村皆読運動について』(1941)

同年に開催された「県下図書館事業研究会」において県内図書館に配布された。

また今回は「読ませなかった」活動を取り上げた、戦後70年特別企画「発禁 1925-1944:戦時体制下の図書館と知る自由」の際に用いたパネルや資料も展示しますので、あわせてご覧ください。

同特別展示の様子は、県立長野図書館ホームページのアーカイブでもご覧いただけます。

戦後70年特別企画

「発禁 1925-1944:戦時体制下の図書館と知る自由」



図書館は皆さんが過去の記憶を語り継ぐための記録を、
書籍やデジタルアーカイブとして収蔵し、提供し続けています。
皆さんがそれらをひもとき、今日そして明日の暮らしを考え、創るための
「知る自由」の基盤であり続けたいと思います。

